

## 第113回長崎大学経営協議会（書面会議）議事要録

1 日 時 令和2年6月12日（金）～6月16日（火）

### 2 議 事

#### (1) 情報データ科学部の大村市移転に係る覚書の締結について

本学の文教キャンパスの狭隘化が進んでいたこと、情報データ科学部が専用の校舎を持たず、他学部の校舎を共用し、講義室や教員研究室が分散していることを踏まえ、適地があれば移転することも含めて検討していた。

大村市から移転候補地の提案があったことに伴い、大村市に情報データ科学部の新たなキャンパスを開設するために必要な協議を開始するため、大村市と覚書を締結することについて、資料1のとおり提案があり、書面により審議した結果、議長を除き、「承認」16名、「不承認」2名、「回答の留保」1名の回答を得たため、原案どおり了承された。

なお、委員からの意見（要約）は以下のとおり。

- ・ 新キャンパスは立地も良く、情報データ科学部の今後の発展が期待できる。
- ・ 教員・学生の住環境整備が必要。
- ・ 産学官連携の推進により情報データ科学部が大いに発展することを期待する。
- ・ 情報系企業や研究開発部門の集積が進む長崎市内に立地することで、日々の交流から緊密な関係性が構築され、研究開発が進展するサイクルが生み出されることが期待できる。これらの効果を高める面では一定の都市規模を有する長崎市に立地すべきであると考える。

キャンパス分離により学習及び日常生活において学生の負担増が懸念される。

- ・ キャンパスが増えることに伴い、キャンパスの維持管理に必要となる財政負担について、様々な問題が生じることを危惧する。

学生、教員の一定数はキャンパス間移動が必要となり、運営上の圧迫要素となる。

サークル活動などの多様なバックグラウンドを持つ学生の相互交流により生み出される教育上の効果を維持するには、キャンパス間移動は課題となる。

今後の協議に参加する外部関係者の人選によっては、新学部や大学の運営に干渉されることが危惧される。

協議の開始は、長崎大学が優位な地歩に立てることが明確になってからでも遅くないのではないのか。

（以上）